全日本私塾教育ネットワーク

私塾ネット広報

http://www.shijuku.net

第33号(平成23年２月号)

楽 ―ゴロゴロガヤガヤと音を出すこと―

Photo by Joh Tadamichi

全日本私塾教育ネットワーク

センター事務局　石川　維雪
〒157-0072　東京都世田谷区祖師谷5-32-31　学燈塾内
TEL:03-6680-6542　FAX:03-6368-5489
Mail:center-office@shijuku.net
１０周年記年大会事務局　仲野　十和田
〒173-0005　東京都板橋区仲宿55-8-205　ナカジュク内
TEL：03-3963-5572　FAX：03-3963-2529

理 事 長　鈴木　正之
TEL03-5743-7458
広報部長　大住　明敬
TEL048-957-8608
編 集 長　谷村　志厚
TEL047-368-2729

私塾ネット・設立１０周年記念大会開催迫る

日時：２０１１年４月２４日(日)　午後２時～７時30分
会場：東京スカイツリー「浅草ビューホテル」

全国塾長・職員研修　１０周年記念講演　藤原和博氏（杉並区立和田中学校前校長）
テーマ：『ＰＩＳＡ型教育を超える人間力を塾が如何につけるか？』

プ　ロ　グ　ラ　ム（案）

第一部　研修大会

開場　午後１時３０分
大会　午後２時００分～５時１０分

①『設立１０周年記念式典』

午後２時００分～３時００分

- 映像で見る「私塾ネットこの１０年」
  関東代表：仲野十和田先生
- ３つの任意団体から「私塾ネットへ」
  センター理事長　：鈴木正之先生
- ご来賓祝辞　（私学代表、学習塾代表）
- 塾団体５０年史・学習塾１００年史紹介
  センター渉外部長：佐藤勇二先生
- 功労者表彰・感謝状授与
  実行委員長：谷村志厚先生
- エリア代表から近況とごあいさつ
- 名誉会長ご挨拶　　山口恭弘先生

②『設立１０周年記念講演』

午後３：１５～４：４５

講演：藤原和博氏
㈱リクルート・フェロー第一号
東京都杉並区立和田中学校前校長
東京学芸大学客員教授
大阪府知事特別顧問

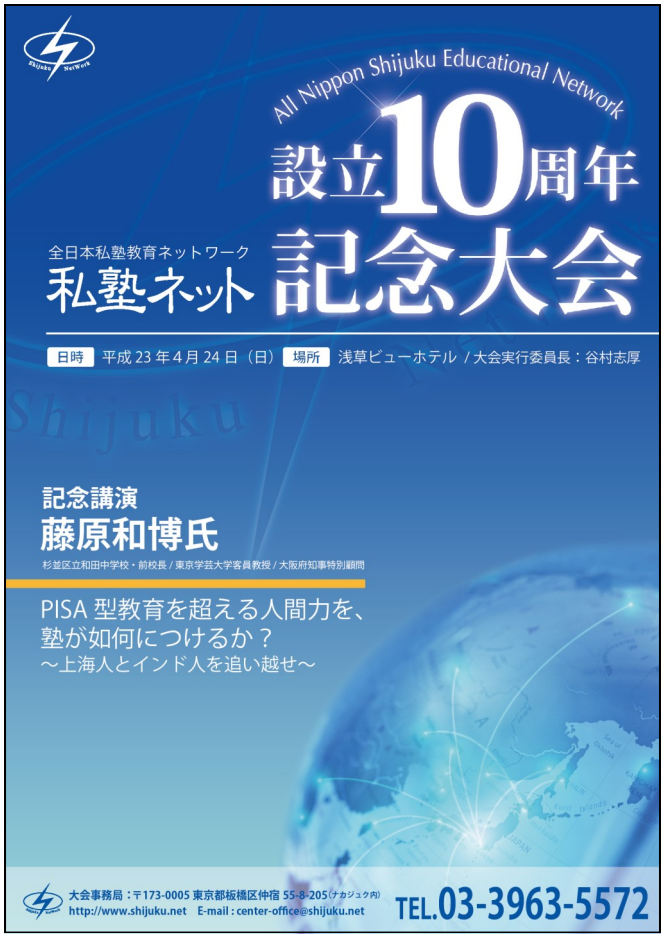
研修担当の田中宏道です。１０周年記念講演に中学校に塾を呼び入れたあの「夜スペ」で有名になった「藤原和博氏」をお迎えします。

藤原氏の目指すものは「正解」ではなく「納得解」を導き出せる人間の育成。「つなげる力」をもつ人間の育成です。それはＰＩＳＡ型教育の枠を超え、いかに自らの言葉で自らを表現し、周囲の人間に行動を起こさせるリーダーシップの養成にほかなりません。区立和田中で行った数々の教育改革「夜スペ」「土曜寺子屋（ドテラ）」「特別授業「よの中科」の創設」「作文指導」は、遅々として改革の進まぬ学校教育を後目に、今後の学習塾での教育に大きな示唆を与える内容であることはまちがいありません。

なおかつ、さだまさしさんに似ている藤原先生の講演はおもしろい！びっくりさせられる！の連続です。授業話術にもとても参考になる講演となることでしょう。全国の学習塾のみなさん、私学のみなさん、協力企業のみなさん、ぜひぜひ楽しみに待っていてください。

以下は、藤原和博先生からのメッセージです。できたら、次のいずれかの本を読んで予習しておいていただくと、理解が早いと思います。

１）『つなげる力』（文春文庫）



和田中改革のドキュメント。「夜スペ」の裏話もすべてバラしています。ビジネス書としても仕事上手の共通点「つなげる力＝情報編集力」の要点をまとめました。

２）『教師を信じろ！ 藤原和博と学校改革に挑んだ１２人の怒れる教師たち』（ぎょうせい）
和田中改革を目撃し、当初は反発しながらも、のちに自ら前面に立つことになった現場教師のホンネ、その戸惑と成長が描かれています。

３）『校長先生になろう！』（ちくま文庫）
鈴木寛文部科学副大臣が丁寧な解説を書いています。校長になってもいいか、校長を動かしたいので、その生態を深く知りたいPTAや地域コーディネータなどの読者、あるいは塾の経営者などにはおススメです。

第二部『設立１０周年　記念パーティ』

午後５時３０分～７時３０分

熱気あふれる第一部に引き続き、第二部ではお食事をしながらさまざまな意見交換・情報交換をいたしましょう。

「H_2O&TNネットワーク LIVE STAGE」
「私塾ネット ジュニアの会 LIVE SHOW」
「春欄万・エリア選抜隠し芸大会」
などがあるかもしれませんぞ。乞うご期待！！

2011．4．24は浅草でお会いしましょう！
（H_2O&TNネットワーク）

2011年4月にはこんな風景が浅草ビューホテルから眺めることができるか？浅草側から隅田川ごしに見た東京スカイツリー。

<私塾ネット広報10周年記念号の発刊>

広報誌記念号の発行を準備しています。私塾ネットの10年の歩みを記録するとともに、広く会員の皆様の声を掲載させていただきたいと思っています。

体　裁：A4ｻｲｽﾞ40頁程度（カラー16、モノクロ24p）
発行日：2011年4月24日

＊誌上ツイッター原稿投稿のお願い

広報特別号では会員の皆様の「つぶやき」を特集します。私塾ネットが１０周年を迎えるにあたって、２００字程度のメッセージをいただきたいと思います。私塾ネットのこと自塾やご家族のこと、あるいは教育に関わることなど、テーマは自由です。投稿の締切は３月１０日です。ご投稿をお待ちします。

◆投稿先：　メール　shikot@aim-net.co.jp
FAX　047-368-2189
郵送　〒270-2231
松戸市稔台1-14-1
ＡＩＭ　谷村

私塾ネットの過去と現在。前方左から平林、山口、梶原。
後方左から渡辺、仲野、加藤、佐藤、谷村、鈴木、大住。

１月９日、広報特別号掲載のための座談会を東京駅八重洲倶楽部で実施しました。出席者は旧３団体のトップであられた山口（全塾連）、平林（ＰＴＦ）、梶原（日私会）のお三方。それに合同委員会の主たるメンバーであった、佐藤、加藤、谷村、仲野の四氏に、センター鈴木理事長、エリア関東渡辺部長とセンター大住広報部長。３団体の合同にいたる経過や思い、そしてこれからの私塾ネット像をそれぞれの立場で語っていただきました。座談会の様子は広報特別号に掲載する他「塾ジャーナル」３月号にも掲載されます。

理事長活動日誌

理事長　鈴木正之

あけましておめでとうございます。今年は理事長最終年であり、４月には私塾ネット１０周年の行事もあります。私自身、精一杯務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

◆１１月３日（祝）塾全協全国研修会

パネルディスカッションの際、質問をした大学生が印象に残っている。あれだけ自分の感情を出せればたいしたもの、参加させてくれた塾全協さんに感謝することを伝えた。

◆１１月７日（日）大井町から教育を考える会主催「私立中高相談会」

私塾ネット関東の協力による開催となり２年目、参加１９校という小規模の相談会だが、会は熱い。塾と私学が一体となって相談会の準備と運営にあたる。他の学校を勧める先生、将来について相談を受けている先生・・・「その子の一番校をみんなで見つけよう！」、「その子の未来をみんなで見出そう！」という趣旨の元、教育者として幸せあふれる先生方の顔が印象的。

◆１１月１１日（日）私塾ネット関東定例会研修会

開智の関根先生のご講演、元気が出る。「品川まで来てくれますか」との問いに「行きます」と言ってくれたことが嬉しかった。先生のお話が聞けるなら、こちらからどこへでも出向きたい。

◆１１月２１日（日）全日本学習塾連絡会議
学習塾の歴史１００周年記念誌編集委員会

執筆者、関係者が揃った。お一人ひとりのお話をお聞きして、塾人のエネルギー、パワーを感じた。これだけの方々が本気になって取り組んでいる。この企画は、誰が何と言おうとそれだけの価値がある企画なのだ。佐藤勇治という男は凄い、そして集まった方々も凄い。最後の挨拶で私が感じたことを話させていただいた。「佐藤先生はこれを集大成とおっしゃるが、そこからスタートとしましょう。奇しくも大河ドラマ龍馬伝の最終回の日、１００周年記念誌が完成したとき、学習塾維新が起きる。みんなで起こしましょう。」この100周年誌の発刊を、学習塾新時代の幕開けにしたいものです。

◆１１月２８日（日）私塾ネット札幌研修会

今年も、入江副理事長にお世話になった。研修会は仲野関東代表による、ムービーの活用術。大いに参考になる。夜の懇親会はいつもの店でお寿司の食べ放題。そしてカラオケとフルコースで心身共に腹一杯。入江先生、北海道の先生方、私学の先生方ありがとうございました。

◆１２月５日（日）学習塾合同忘年会

今年も参加させていただきました。塾団体間で少し前向きな会話が出来たかと、思っている。

◆１２月１２日（日）私塾ネット関東忘年会

大阪の杉山先生も参加され、楽しい会となった。ストレス解消のためにお勧め？

◆１月９日（日）塾総合展・学習塾合同新年会

今回は、１０周年記念広報掲載の座談会を行ったため、国際フォーラムの総合展も少ししか顔を出せなかった。総合展と新年会は新年の初顔合わせの会、学習塾の先生方、私学の先生方とお会いできることが楽しみで参加させていただいている。今年も大勢の方々と挨拶を交わすことが出来た。

◆１月１４日（金）私塾ネット関東：入情研

今回は当塾、いぶき学院での初開催となった。当日私は通院日、職員の山本と平山が全ての準備をした。自塾でやってもらえることが職員の研修になる。大変有り難いことである。仲野代表、渡辺総務部長、入情研の皆様に感謝したい。さて、関東の若手職員が中心となって活動している入試情報研究会。学習塾は人が命、職員の成長無くして塾の存続と発展はあり得ない。職員の職員による職員のための研修会。顔は出しても口は出さないようしたい。

◆１月２３日（日）私塾ネット関東：ニューイヤーパーティ

今年も４０名を超える方々の参加で大変盛り上がった。参加型の会であるので参加者全員が楽しい。私は何もお手伝いをしていない。お客さんである。しかも、理事長という肩書きを負うことがない会である。つまり、理事長としての挨拶や紹介がないのである。賛否両論有るかもしれないが、私は理事長の紹介等は必要とは思わない。このパーティの主役は家族、家族があっての自塾であり、私塾ネットである。決して理事長あっての家族ではない。家族無くして我々は活動していけないのである。理事長の為の挨拶ならばない方がよい。

私塾ネットは会員塾の塾長さんだけの会では無いと思っている。職員と家族も私塾ネットの仲間であり、大切な一員である。会員の皆さんには家族と職員を大切にし、感謝の気持ちを忘れることなく活動をしていただきたい。それが、私塾ネットであると思う。

エリア通信

エリア関東　代表　仲野十和田（東京・ナカジュク）

10/24（日）、私学情報交換会（私塾ネット関東主催）にて、開智中・高校校長、関根均先生のお話がとても興味深いものでしたので、早速11/11（木）に、学校へ押しかけ、講演をしていただきました。『サプリ体操』といわれる、体操から始まり、『教えのサプリ』というタイトルで、普段学校の先生たちに伝えている内容を、アレンジしてお話をしていただきました。素晴らしかったです。

関根先生の身振り手振りを交えた名講演にしばし圧倒される

その後、すぐ近くの富士進学スクール（立脇堯先生）の塾舎のお寄りし、塾紹介をしていただきました。「塾は人だなー」ということを改めて感じさせられました。立脇先生もお元気でなによりです。

富士進学スクール立脇塾長が今も変わらぬ塾への情熱を披露される

12/8（水）は、津田沼学院（高橋直子先生）にて、研修会を行いました。５月に行われた、全国模擬授業大会（開倫塾主催）では、見事最優秀賞に選ばれた高橋先生。音楽を取り入れた英語の導入授業は、楽しく参加できました。さすがです。その後、イベントなどで取り入れているゲームを全員で行いましたが、皆さん、童心に返ったように楽しいでいました。

エリア四国　代表　寺嶋　謙次（香川・学習院セミナー）

「研修に向けるまなざし」

最近、「社員研修」に眼を向けています。塾の世界では、以前から「社員研修が大切だ」と言われています。他方で、最近では「採用の失敗は、研修では補えない」という言葉もよく耳にするようになりました。もちろん、「採用」は大切です。しかも、最近は不況による就職難により、中小の塾にも優秀な人材が望めるようになりました。「採用」にことさら力を入れたいのは言うまでもありません。しかし、採用したからといって安心はできません。我々、塾業界は、「夜の仕事」であり、しかも、残業は日常茶飯事。それゆえの離職率の高さは、筋金入りであります。優秀な人材が望めるようになってきた今だからこそ、採用後の「研修」が重要なのではないかと、やはり考えざるをえません。

ところで、「研修」をしているうちに、気がついたことがあります。もともと、「研修」といえば、社会人力（社会人としてのマナー）や、会社人力（会社に対する忠誠心・利益貢献）や、塾人力（授業力・生徒掌握力）など、「研修を受ける側」の「社員個人」のスキルアップが目的と言われていました。そのため、社員同士を競争させ、ふるいにかけるために、「研修センターの鬼軍曹」とか、「山中の寺での修行」といった逸話も耳にしたこともあります。しかし、「研修」でそれ以上に大切なの

は、①「研修を受ける側」である社員間の横の連携を強くすること、②「研修する側」と「研修される側」との信頼を厚くすること、③「研修する側」のスキルアップをもたらすこと、ではないかと考えるようになりました。

少子化の時代を向かえ今、「地域からの信頼」というのは、塾・予備校にとって生命線であろう。とするならば、「あの塾は先生がよく辞める」といううわさは、ありがたいものではありません。希望を胸に入社してきてくれた人材です。社員を大切に育て、地域から信頼され続ける塾でありたいと思う今日この頃です。

エリア中国　西川　敏博（広島・ノーベル学習館）

2010年11月14日「私塾ネット中国」の忘年会を開催しました。前年から城先生のアイデアで夫婦同伴が恒例となり，昨年も夫婦同伴の忘年会です。私は残念ながら妻のスケジュールが合わず一人での参加となりましたが，前年は妻に頼みこみ何とか夫婦で参加できました。私の場合は普段ろくでもない飲み会に多々出歩き，家庭での評判が地に落ちているのですが，お陰さまで「私塾ネットって，いつもあんな素敵な忘年会なの？」と誤解され，昨年は何とか円満に1年を過ごすことができました。この忘年会は私にとってすばらしいみそぎの日になります。

さて，私塾ネット中国が誇る「音楽と夜景とご馳走と家庭サービス」をパックにした忘年会をご紹介します。昨年は「笑い」と「歌」を加え，さらにグレードアップしました。場所はリーガロイヤル広島の３２階「サファイア」，大きな窓からはライトアップされた広島城を俯瞰できます。部屋に入ったメンバーたちは，しばし景色に見とれていました。第1部では食事をしながら落語鑑賞。お腹が落ち着き酔いも程よく進んだところで，シンセサイザー奏者の上木ひろみさんのすてきな演奏会，そして林先生のご令嬢によるシンセサイザー演奏で，私のすさんだ心が洗われ，西川先生の会場を盛り上げる歌声，城先生ご自身の作詞作曲による演歌のご披露（今年はめずらしく演歌でした），そして河濱先生のクリスマスメドレーと続き，最後は飛び入り参加の「二胡演奏者」姜 暁艶（ジャン・ショウイエン）さんの演奏会になりました。第２部では余韻に浸りながら最上階（３３階）の「リーガトップ」で広島の夜景を肴に本音トークとお酒を楽しみましたとさ。

自作の演歌を熱唱される城先生の雄姿

筋がいいとジャン先生に褒められた田中先生

林先生のご令嬢

私塾ネット中国の父と母

エリア中部　代表　松本　紀行
（長野・チャレンジ学院）

代表者たる者の心得

塾の経営を、会社として、企業としての仲間入りをする時代となった。経営者の考えが、経営理念となりその理念に共鳴したものが社員となり、会社を作り上げていく。企業寿命30年と言われる中にあって、経営者の手腕が問われている。そこで僭越ではありますが、私がいつも心掛けていることを質問形式で、皆さんに問いかけることによって、皆さんの塾の発展に寄与出来ることを願ってあえて一筆するところです。会社組織が多いのでそういう言い方を致します。

1.あなたは会社を発展させるために、最高の熱意を持っているか？

私は以下のように思う。「最も必要なものは熱意である」と。社員が100人いて皆が熱心だとしても、社長は熱意にかけては最高でなければならない。熱意のないものが最高の地位にいてはならないんです。

2.あなたは会社を発展させるために、自らを叱り続けているか？

社長として常に経営理念を貫いているか。会社の使命を忘れていないか自問自答を繰り返し、絶えず自らを叱り続けなくてはならない。「心」が弱気になってマイナス発言をしてしまうこともあり得るが、そんな時、素直に自分を叱らなくてはならない。

3.あなたは会社を発展させるために、社員に目標を与え続けているか？

最近の会社の進歩はすさまじいと言える位、急速な発展を遂げている。立ち止まっているとどんどん追い越されてしまう。経営者たるものは、日に新た、常に会社と社員が進化するよう、より明確な目標を与えられないといけない。

4.あなたは社員を育てるために、“叱る”という大変な苦労を真心こめて実践しているか？

叱りもせず何もせずして部下が一人前になることはない。叱られてありがたいと部下に感じてもらえる。そういう上司でいるかどうか。

5.あなたは強固な組織づくりを常に考え抜いているか？

組織は生き生きしていないといけない。逆に死んだ組織では、指示が何日もかかって、やっと全員に伝わっている。その時には、すでに事が終わっている。これでは会社の発展は望めない。会社が発展する為には、指示が当日中に全員に伝わる会社でありたい。途中で誰かが停めないでほしい。時々、心の中で手をあわせて祈る気持ちになる。一言で言ってしまえば“電光石火”の「ほうれんそう」が大切である。

6.あなたは会社を発展させる為の苦難を、楽しんでいるか？

経営はその道のりにおいて、苦難、苦悩が待ち受けている。しかし、経営者たるものは、その苦しさを味わい、それ自体を宿命と思い楽しめるようでなければいけない。心配がいやなら社長は務まらない。会社の中で一番心配するのが、社長の役目であるから。

7.あなたは会社を発展させるための目標設定と反省を繰り返しているか？

私は年頭に目標設定し、年の暮れに反省する。朝に方針を決め、寝る前に反省する。こんなことを長年あきもせずやってきている。正確に言うなら、あきもせずではなく、“ワクワクして”と言った方が当たっている。昨今の不況時でも「ピンチこそチャンス」と考えれば、乗り切っていくことができる。しかし猛反省すべきは、会社がうまく行った時の事。50万円ぐらいしか儲からなかった時は“がんばらなくちゃ”と思い、500万円儲かったら“ちょっといいな”となる。そして今度5000万円儲かったら“もういいか”と使いかける。コストをわきまえず新しい機械をドンドン仕入れ、気がついた時は債務超過となる。世間では経営がうまくいったあと、急に倒れるところがよくある。「勝ってカブトの緒を締めよ」である。好調時にこそ目標と反省をきちっとやっていかねばならない。「目標設定は人を元気にし、反省は人を更に元気にする」。

8.あなたは自然の法則にかなった会社にしているか？

一言で言うと、「雨が降ったら傘をさす」（松下幸之助）。という当たり前のことである。「宇宙はどんどん進化しているという」（中嶋教授）。その中にある地域もそこに住む人間も進化しないわけにいかない。大きな力で変動している。このルールに反するものは滅んでいく。会社も然り。自然の流れに添った経営こそ成長していく。1000円のものを500円で売っては会社は続かない。1200円で売ってはじめて200円の利益が出て継続していく。未収金が500円あったら、値下げしたことと同じ結果になってしまう。売ったら適正なお金をいただく。これが「自然の理」にかなった経営と言えよう。

生意気な言い方、御容赦下さい。

私塾ネット関東・ニューイヤーパーティー開催される

2011年1月23日・今日の主役は家族の皆さまです

今回で６回目を迎えた私塾ネット関東『ニューイヤーパーティー』が１月２３日（日）、千葉県幕張にある「アパホテル＆リゾート東京ベイ幕張」にて行われました。今回も総勢５０名近くの参加者があり、大変盛り上がりました。いつにもまして４６階スカイバンケットから見る景色は圧巻でした。

さて、今回は仲野代表に仕切っていただくという前例のない出だしに、当の代表本人は多少の焦りがある中、長江副理事長の挨拶で開会しました。長江副理事長は挨拶の中で、ご自宅でお正月に食べたお節料理の原材料の生産地が何カ国あるのか、というクイズを出され、なんと１０カ国以上の生産地から作られていることが分かりました。日本の食料自給率がこれほどまでに下がっていることにも驚きましたが、こういった普段の何げない所にも注目されていらっしゃるのは、流石塾の先生だなぁと感心しました。

続いては加藤先生の乾杯のご発声。いつもながら元気な加藤節が炸裂し、聞いている参加者の苦笑いを誘っていらっしゃいました。どんな事を話されたのかはご想像にお任せします。（笑）また、加藤先生は毎週末にラウンドワンに行かれて

いるらしく、オールナイトでローラースケートをされているそうです。まだまだ元気な加藤先生の秘訣はこの辺にありそうですね！

さてさて、いつものようにご家族な方全員参加のゲームが始まりました。仕切りは津田沼学院の高橋直子先生。１１月の関東の定例会は見学を兼ねて高橋先生の塾舎（津田沼学院）をお借りしました。その際、高橋先生の模擬授業を見させていただきましたが、先生たちが一瞬で生徒に戻ってしまうあの授業のやり方は、大変勉強になりました。今回のゲームでも大先輩の先生方も童心に帰り、やんややんやで楽しんでいらっしゃいました。

そして、最後に登場したのは、仲野代表、高橋直子先生、柳田浩靖先生（日米文化学院）、そして、私渡辺の即興ユニット「H_2O＆ＴＮネットワーク」。昨年のニューイヤーパーティーでデビュー？を果たしましたが、今回もこの４人で歌を披露することとなりました。テーマは「学校、感謝」。塾ならではですね。『学園天国』に始まり、『卒業写真』や『青春時代』などの懐かしソングや童謡シリーズ、『負けないで』、『バンザイ』などの応援ソングなど計２０曲近くを歌わせていただきました。他エリアの先生方、ご要望がございましたら、いつでも駆けつけますので、その際は私塾ネット関東総務部渡辺までご一報ください。（笑）また来年も企画盛りだくさんで楽しんでいただけるよう頑張ります。

文責　私塾ネット関東総務部　渡辺塾　渡辺浩

←会場となったアパホテル＆リゾート東京ベイ幕張。
日本最高層のシティー＆リゾートホテル。

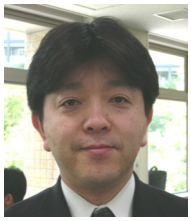
即興ユニット「H_2O＆ＴＮネットワーク」の熱唱。ちなみにH_2は、浩と浩靖、ＴＮは高橋と仲野だが、Ｎさんは左端でギター伴奏中。

谷村会長もゲームにかり出される。太っ腹にたたられ悪戦苦闘中。右は渡辺浩夫人。

パーティーの主役は家族の皆さん。ことに子どもたちがその中心です。塾長パパは普段以上にやさしい表情で家族サービスに努めていた。

「合格まんじゅう」で中高入試突破を祈願

広島の河浜先生から「紅葉まんじゅう」ならぬ「合格まんじゅう」をご紹介いただいた。たいそう気に入ったのでこの日のために広島から取り寄せ、合格祈願として出席の皆さんにお配りした。折から入試シーズン開始の時、塾生の合格を祈念し皆さんでおいしく頂いた。「合格まんじゅう」は塾とまんじゅう屋さんのコラボで開発された期間限定の企画商品。ご興味のおありの向きは「やまだ屋合格まんじゅう」でネット検索すれば、商品開発の由来なども紹介されている。受験生への縁起物として、取り寄せされたらいかがか。尚、今年最終の発売はは２月１８日受付け分までとのこと。急げ。（谷村）



エリア東北　代表　畑山　篤
（青森・志学塾）

『ゆとり教育世代の○○が
大変らしい!?』

今年も２月に入り高校受験の直前講習会が始まりました。私は例年通り最初の国語の時間に「豊かさ」という題で百字以内の作文を書かせました。「あなたの思うことを書きなさい」という作文指導の基本問題です。中３生が″思う″豊かさは、ゆとり教育世代に入り随分と様変わりしました。「日本は豊かな国だ。しかし世界には…」という展開が多いのは相変わらずですが、この「…」に入る話題が世相をストレートに反映していてある意味おもしろいと思っています。

特にこの数年は、「環境問題、森林伐採、二酸化炭素」という話題から「もったいない、食べ残し」という話題に変わってきました。南北問題、貧富の格差を挙げる子どもが多かった１０年程前には、塾生の何名かは「豊かさには物質的豊かさと精神的豊かさがあり、私は精神的豊かさこそが云々…」と整理して書くことができたものですが。今年はついに書き出しから「私は豊かさは必要ないと思います…」と言い切る子が出現し、添削をしていた私は大変違和感を覚えました。

これから先、ゆとり教育世代の子どもたちの″豊かな人生″はどうなっていくのでしょうか。私には、１５歳の船出に臨む子どもたちが嵐の前の静けさの中、備えもなければ憂いもないように思えてなりません。

『ゆとり教育世代の○○が大変らしい!?』…このフレーズの○○には何を入れたらよいでしょうか。どうも「学力」どころの話ではなくなってきていませんかという切り口で、私塾ネット東北では昨年より地域の子育て・教育イベントを開催してまいりました。

去る１２月５日（日）には昨年同様「２０１０年小中学生のための最新！高校入試説明会in八戸」を開催いたしました。当日は志学塾ゆりの木通り教室特設会場という手狭な会場にもかかわらず、１２６名の子どもたちと保護者や私学・学習塾関係者で１８０名近い方々にご来場頂きました。　一斉説明コーナーでは、「脱!!ゆとり教育で教科書はこう変わる！」「最新!県立高校入試解説会」などの進学情報セミナーが行われ、個別相談コーナーでは、県内・県外の私学１１校がブースを設けて、八戸市を中心とした青森県南地域の子どもたちとそのご家庭に、今年も確かな学びの情報を提供して頂きました。

恒例の八戸懇親会は１８時の″居酒屋ていじ″をスタートに、二次会、三次会は屋台村″みろく横丁″へ。地元をはじめ北海道から大阪まで、私学・学習塾関係の方々の他にも広範囲なお立場で教育に関わる方々のご出席を賜りました。

前夜祭からの熱い教育談義は今年も大いに盛り上がり、懇親会だけでもと駆けつけて下さった先生方や、連泊、３連泊、４連泊される先生方も。本当に長時間に渡る教育情報を交換する貴重な機会となりました。2010年師走、地域の教育を熱く語る八戸のイベントでした。今回のイベントが２１世紀を担う子どもたちによりよい教育環境を提供していく一歩であり、さらには皆様の飛躍の一助となればと願っております。大変お忙しい中、ご参加・ご協賛、あるいはご紹介等のご支援を賜りまして、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。尚、当日は私共の不慣れな会場運営のため、何かと失礼もございましたこと、改めまして深くお詫び申し上げます。

個別相談にのぞむ子どもたちと私学の先生。真剣な表情が印象的。

塾主催イベント研究　その⑥　栄光塾（大阪府柏原市）

塾長　杉山　信良

恒例富士登山

「…というわけで、今年も信貴山で肝試しをします。」という私の言葉が終わらないうちに、「富士山に行きたい！」と突然一人の生徒が叫んだ！「おもろいやんけ！」という事になり、一ヵ月後に中三有志と富士山に登る事となった。六年前の七月の授業中の１コマである。

それ以来、盆休み前最後の中三の授業を終えると、ウエストミンスター寺院の鐘の音と共に、スーツをジーンズに着替えて、終業五分後にはバスのハンドルを握るのが恒例となっている。一年目は河口湖から登ったが「富士山に行きたい！」と叫んだ生徒はあえなくリタイヤ！二年目からルートを大阪寄りの富士宮口に変更し、深夜に五合目到着。７時までに八合目山小屋まで登ってから仮眠の予定が、途中で気を失ったように寝てしまう者や、高山病の症状を訴える者が相次ぎ、計画変更を余儀なくされる。

三年目は参加者の授業を早め、午前中に大阪を出て、九合目に宿を取る。２１時の消灯に夜型の生徒達は眠れず、静寂を破るヒソヒソ声、うっとうしい事この上なく、他の宿泊客にも顰蹙を買い、たまりかねて「ツアーに混じって、上まで行ってこい！」「えっ、塾長ほんまにええの？」と弾けるように山小屋を飛びだす七人の男子。やれやれと思ったのも束の間、午前２時３７分、バーンという大音響とともに「遭難するかと思った！」「でも俺ら生きてるし！」と五人の腰抜けが生還。「お前ら、ええかげんにせい！」山小屋の皆さんお騒がせして本当にすいません！

四年目は山上館を予約。絶対リタイアは許されない。夏季講習の合い間に、近場の山で参加者とトレーニング。標高５５０メートルの二上山に登れなかったI君には辞退してもらい、万全を期しての富士登山。見事全員登頂も、私も含め数人は一睡も出来なかったようだ。五年目は山小屋をあきらめ、麓のホテルに宿泊し、日帰りの富士登山に挑戦。予行演習も鳥取の大山に移した。「うちら絶対、富士山に登れると思うわ。」と豪語していたテニス部の二人が、口ほどにもなく大山の三合目でダウン。「こらアカン!」というわけで、ホテルで同室の二人に一つずつバスの合鍵を渡し、調子が悪くなったら下山してバスで休んでもらう事にした。テニス部の二人も「塾長～。うちら頑張って３０００メートルまで登ってんで～。」と彼女らなりに富士山を満喫した様子。

杉山先生の楽しそうな授業風景

昨年は二合目のバンガローを手配。麓のホテルより３５キロ富士山に近い上に、山小屋と違い、貸切なのに料金は半額以下。充分な睡眠も取れ、時間も余裕で、一番乗りは山頂に１０時１８分到着。全員が山頂を踏み、１５時過ぎには無事みんなが下山できた。下山した夜は、一気に大阪に帰らず、愛知県に泊まって、明くる日の朝から、長島スパーランドで絶叫マシンを楽しんでから帰る事にしている。

この六年間の合計１８日で、天気は一時雨というのが二回だけ、天候にはずっと恵まれている。これも偏に私の日頃からの行いがいいからに違いない。と思っている。

しかし、こんな事を書いてしまうと、今年は雨に祟られるかも…。

気になるお値段は：参加費一万円　その他の自己負担は３０００円くらい。塾の負担：私の旅費も含め３万円程度。どうです、イベントの内容の割りには安いでしょ？

元気いっぱい富士登山（今のところは・・・・）

首都圏教材教具展事情
塾教育総合展（ＡＪＣ主催）・千葉県教材教具展（ＪＡＣ主催）

2011年1月9日（日）午前10時30分～午後3時30分、東京国際フォーラム、展示ホールＢ２Ｆにおきまして、全国学習塾協同組合（ＡＪＣ・森貞孝理事長）主催による「塾教育総合展」が行われました。

私はAJCの理事であるため、実行委員として参加しました。去年は平日に行われたため出展業者数や動員数が心配されましたが、逆にそれが良い結果を生み実行委員長であった私もホット胸をなで下ろしました。

今年の実行委員長は私塾ネットのメンバーの松浦重雅先生（千葉・教進セミナー）。今年は（土・日・祝）の3連休の中日に行われるため、動員が懸念されました。しかし昨年より参加人数は若干少なかったものの、盛況裡に終わることができました。

特に今年は「教科書維新の年」小学生は　①英語が5，6年で必修化される。②算数の学習項目が増える。③国語は言語力育成が課題となる。④教科書の内容が約1.5倍になる。など10年ぶりに「学習指導要領」の内容が改訂されたため、各ブースの関連教材コーナーやセミナールームで行われた新教材のセミナーは大盛況でした。立ち見が出るセミナーもありました。

塾にとって教材は最大関心事。塾の先生方の真剣な様子を見て、身の引き締まる思いでした。

今回も動員にご協力いただきました私塾ネットの皆さんに感謝申しあげます。　（報告：長江勝秋）

開会の挨拶に立つ森AJC理事長。後方は玉城理事と松浦実行委員長　→

千葉学習塾協同組合（ＪＡＣ・長谷川洋男理事長）主催の教材教具展が、１月２２日（金）、三井ガーデンホテル船橋ららぽーとにて行われました。千葉の組合の方は、理事長をはじめ、多数の方が私塾ネット会員です。ブースが空いているというので、急遽１週間前に参加することが決まりました。担当は、総務部長の渡辺浩先生の私仲野でした。組合のブースの担当が田中宏道先生だったので、３人で主に４月の全国研修の案内を配布し、デスクでは私塾ネットを綴る写真をPCで流しました。会場はとてもアットホームな雰囲気で、とても居心地良かったです。鈴木理事長、谷村会長も途中応援にお越しいただきました。両隣のブースには、日ごろお世話になっている、私塾界さんと、ルックデータ出版さん。なんと、私塾界の山田未知之副社長には、その場で賛助会員の手続きをしていただきました。

ありがたし！　（報告：仲野十和田）

10周年記念大会のポスターも鮮やかな私塾ネット特設ブース。

私塾ネット宣伝隊員。左から田中、渡辺、仲野の精鋭部隊。

特別寄稿　受験勉強は人間形成の場　シリーズ②　名誉会長　山口恭弘

【我慢を覚えることの大切さ】

オリンピックに出たいと願う選手が、オリンピック候補に選ばれるために懸命に練習する姿は美しい。しかし難関中学に合格しようと懸命に努力する小学生の姿を、世間はともすれば揶揄する風潮があるのは、残念でならない。勉強は子どもたちの人間形成に不可欠だ。とりわけ受験勉強は子どもたちに我慢することの大切さを学ばせる絶好の機会だと考える。目的があれば、その目的に向かって猛勉強するのは当然である。

しかし最近は子どもたちの自主性の尊重を履き違え、親も辛いことを子どもたちにさせたがらず、また子どもをかわいそうと思うような親が少なくない。本来は辛くても、我慢してやり遂げ、達成できた喜びを味あわせてやるのが、本当の親の愛情ではなかろうかと考える。

【分らないことを気にしない】

勉強は「理解」の連続ではない。勉強を続けていれば、どうしても分らない問題に出くわす。しかしそこで足を止めたり、投げ出したりしてはいけない。そのうちに、「なるほど」と思える時が必ず来る。それまで我慢して勉強を続けることが大切だ。

「読み飛ばす勇気」と「立ち返る勇気」を持ってほしい。このことを覚えると、大学・社会に出てからきっと役に立つ。

【テストの意味】

テストは点数を競うために行うのではない。子どもたちの理解度がどの程度か、またどんな出題形式が苦手か、どんな分野が不得意かを調べ、指導方法を考えるために行うのである。だから保護者は、単にテストの点数が上がった下がったと、一喜一憂しないでほしい。

テストで大切なのは、間違った範囲の学習をしなおす、教えなおす、またその反省をすることである。テストは「自己発見」と「自己改革」のために行うのである。

【昔と今の子どもたち】

昭和40年代と今では、子どもたちの姿が大きく変わったと感じる。昔の子供たちは何事にも積極的だった。それに、分からない問題で苦しんでいる姿を見て、「教えようかと」言葉を掛けたら、「いいです。自分で考えます」という子どもも多かった。しかし最近では、ちょっとわからないと、すぐ「教えて」と言う子どもが多い。難しい問題に出会ったら、「ここでひとがんばりしよう」という気持ちに欠けるのではないだろうか。

それに昔は学校や塾で先生が子どもを叱ると、それを親に報告した子どもは、「おまえが悪いことをしたからだと」と、もう一度、叱られていた。しかし最近は、子どもがなぜ叱られたかを考えず、学校や塾に文句を言いに来る親がいる。時代は変わったと、思わずにはいられない。

【塾の存在意義】

塾は受験のテクニックを教える場であってはならない。勉強を通じて人間を鍛錬する場、人間形成の場となるべきである。勉強を教える際には詰め込みにならないように心がけ、世のため、人のために勉強し、責任をもってやり遂げる姿勢を学ぶ場であると、まず、勉強することの意義から、塾は子どもに説いてほしい。

さらに塾が連合し、教育の一環の場としてその存在意義を世に訴え、社会にメッセージを発することを願っている。

誌上句会　第六回

選者　梶原賢治（私塾ネット副理事長）

年明けて　初のビールの　泡見つめ
受話器越し　合格したと　弾む声　（神奈川　中村直人）
年が明けて、また健康にビールが頂けるのは、まったくおめでとうにふさわしいですね。

新年よ　門松飾り　祈願する
迎春や　ポカポカしたよ　虹の夢　（東京　石田治正）
そんな天然色の豪華な夢見てみたいですね。

凍星の　幾光年の　光かな
球根の　口ばしのぞく　寒の明　（千葉　谷村志厚）
あの口ばしの可憐さとたくましさには感動させられます。

大晦日　定めなきよの　定めかな　（井原西鶴）
確たりし　定めなきよの　初日の出（井原西鶴にお返しの句）
如月の芽　堅く黙せし　ひたすらに　（埼玉　梶原賢治）

編集部からお願い

十周年記念大会互選句会のお知らせ

次号は4月発行の特別号です。お寄せいただいた句を無記名で掲載します。記念大会出席の皆さんにその場で投票していただき、入選句を決するという企画を実施します。そこで投句はお一人**3句まで春の季語**でお願いします。

投稿はメールshikot@aim-net.co.jpまたはＦＡＸ047-368-2189谷村宛。

締切は3月末日です。

渉外部報告　渉外部部長・佐藤勇治

学習塾百年の歴史
－塾団体　五十年史－

寒中お見舞い申し上げます。

平成22年2月19日に、母・佐藤千春（享年104歳）を、3月24日に、義母・大野恒子（享年97歳）を相次いで見送りました。私たちにとっては、二重の悲しみでしたが、2人の母の最期に、納得のいく形で立ち会えたことが、せめてもの慰めでありました。

本来なら、昨年中に喪中のご挨拶を申し上げるべき所、『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』への原稿依頼、編集の打合せ、他団体の行事への出席と取材などに忙殺され、失礼致しましたことを重々お詫び申し上げます。

さて、谷村志厚会長より、今回は『百年史』の紹介というタイミングの良いお話を頂きました。お陰様で、本書は、執筆者＝150数名、約600頁の、後世に残る、貴重な歴史書として完成されつつあります。発行費用＝約500万円、1冊実費＝4,500円の予定です。会員の皆様には、一口＝5,000円（発送費用＝500円を含む）の浄財で、各塾に1冊ずつ保存し、関係各位に回覧していただければ幸いです。

なお、原稿の最終締切日は平成23年(2011)3月20日です。執筆ご希望の方は、至急佐藤まで、お問合せ下さい。

【発刊の目的】

江戸時代に隆盛を極めた寺子屋も、明治の学制改革で消滅いたしました。学習塾は、学校の補完的役割から受験指導、さらに独自な分野を模索しながら、発展途上にありますが、学校制度の改革により、百年後、二百年後も存在するとの保障はありません。

後世の学者が、現在の学習塾を調査、研究しようとした時、最も信頼される資料は、当事者が残した第一次資料です。

わたしたち、編集委員24名は、自分たちの歴史を自分たちの手で残そうという稀有な志を持って集いました。

平成17年(2005)秋より、編集長の佐藤勇治が準備を進めて参りました『学習塾百年の歴史－塾団体五十年史－』は、平成21年(2009)7月9日(木)の第90回 全日本学習塾連絡会議、平成22年(2010)3月14日(日)の第9回 編集委員会（全体会）、11月21日(日)の第94回 全日本学習塾連絡会議（代表幹事 坂田義勝氏）、第10回 編集委員会（全体会）、団体と個人執筆者合同会議（出席者41名）での検討を経て、概要が決定しました。

現在、編集作業も順調に進捗しており、平成23年(2011)11月30日発刊予定です。

【体裁と概要、本書の入手方法】

（１）［体裁］

総頁数　約580頁、カラー表紙絵（開智学校）、カラーアルバム　10枚、写真多数
執筆者　現在、150名、上製本、函付き、見返し（朱色）、費用　約500万円

（２）［概要］（第1部のみ執筆者のご芳名を紹介）

第1部　特別寄稿（約35頁）
◎原稿の執筆をご了承頂いている先生方
文部科学省（執筆者　調整中）
東京大学大学院名誉教授
松丸道雄　先生（中国古代史甲骨文字研究）
京都大学大学院名誉教授　西村和雄　先生
一橋大学大学院名誉教授
中嶋浩一　先生（理学博士　天文学）
衆議院議員　下村博文　先生
参議院議員　大島九州男先生
日本私立中学高等学校連合会
会　長　吉田　晋　先生
東京私立中学高等学校協会
会　長　近藤彰郎　先生
埼玉県立浦和高等学校
学校長　関根郁夫　先生
大阪府立北野高等学校
学校長　八尾　隆　先生
私立東大寺学園中学校・高等学校
学校長　矢和多忠一先生
私立灘中学・高等学校
学校長　和田孫博　先生
千葉県立千葉高等学校
学校長　高岡正幸　先生
東京都立日比谷高等学校
学校長　石坂康倫　先生
第2部　学習塾の歴史（約100頁）
第3部　江戸時代の寺子屋と現代の学習塾について(約40頁)
第4部　発刊への道程と塾業界の動向(約20頁)
第5部　塾団体五十年史･47団体執筆(約150頁)
第6部　学習塾から私立学校を設立した方と学習塾塾長からの寄稿　約65名執筆（約150頁）
第7部　戦後の学習塾発展に寄与した人たちと企業（約40頁）
第8部　浄財（寄付金）提供者一覧、全国の学習塾名簿一覧（約20頁）
第9部　学習塾業界と教育関連の参考資料(約25頁)

以上、合計約580頁

（３）［本書の入手方法］

浄財（寄付金　1口＝5,000円／2口以上大歓迎）、非売品のため、1口＝5,000円の浄財で1冊贈呈（実費）、歴史書としての価値を保持するため、広告のページはありません。

エリア北海道　研修会レポート

２０１０年１１月２８日、白い結晶が今にも舞ってきそうな空模様の中エリア北海道の研修が行われました。公共機関や地下道が発達しているこの時期の札幌は地上とは打って変わって東京より暑いくらいです。札幌進学教室で、トレードマークとなっているエプロン姿の入江昌徳先生にお会いしてやっと“札幌”にいる実感が湧きました。

研修のトップは、関東代表の仲野先生の「～ナカジュクの在り方、私の在り方～」というテーマでムービー、イチローが小学６年生の時の作文などを題材にし、先生が実践なさっている日常をご紹介くださいました。いろいろな資格を持つ仲野先生ですが、昨年も新たな資格を得たというお話には、飽くなき知の追求者という姿を感じました。

続いて入江先生の司会で近々札幌で開校するであろう“公立中高一貫校”について全体討論がなされました。首都圏の例や私立校との競合、塾の指導等細部に渡った意見が交換されました。さらに,レベルの高い北海道の英語について、小学生の英語の導入・指導方法など多方向から貴重なご意見を伺いました。

最後に塾経営の多角化の必要性という面から、入江先生が分かり易い（さすが教育者）説明で大手塾の統廃合・再編、IT企業の今後の参加展開などをお話くださいました。このような業界の流れの中、中小の塾は純粋な教育という面とは別の経営面を持つことも考慮しなければならない時代になっている現状を改めて認識しました。

研修会の後は楽しみにしていた懇親会＆２次会のカラオケ！１次会は豊平の寿司『尾州』で美食の宴！札幌の知人に聞いても最高級のお店と口をそろえます。しかし、一流のお店に限らず札幌の食は本当においしい。一年の多くを雪に閉ざされて生活する北の人々に豊かな食材をご褒美として誰かが用意したと思うほど何を食しても美味です。その要因には、きれいな水と澄んだ空気が不可欠なのでしょう。私たち塾に生きるものも生徒から先生が不可欠といつまでも言われ続けたいと感じた札幌研修でした。

（報告：木谷塾　木谷朝子）

閑話休題

編集長　谷村志厚

10周年記念大会の準備も、講演者が藤原和博氏に決まり、大会の全容がようやく見えてきた。藤原氏であればご講演の力量、知名度ともに記念大会ふさわしいであろう。あわせて素敵なポスターも仕上がってきた。エリア東北の畑山代表が作られるポスターデザインを、ほうふつさせる仕上がりである。講演者の選定やポスター作りは、大会事務局の仲野さんと研修部長の田中さんにお任せしたが、期待にたがわぬ出来栄えだ◆１月２４日のエリア関東のニューイヤーパーティーに出席して、私塾ネットもますます次の世代に移行しつつあると実感した。子どもたちを交えたゲームに興ずる風景は、小生の塾歴30年の間には稀有なものだ。小生の塾界との関わりの時間は残りもうわずかであるが、それを受け継ぎ次代につながる人材に恵まれたことに感謝したい◆記念広報誌の原稿集めが始まった。P3で案内をさせていただいたが、出来るだけたくさんの会員の皆さんの「ささやき」を掲載したい。「ささやき」第1号の原稿は、北海道根室市の育英塾岸部先生からであった。もっとも遠くの会員から一番早く投稿をいただくとは、なんとも面白いことだと思うとともに、情報化社会の特性の一端をみた思いである。物理的な距離はいまやハンデではないのである。それはともかくとして、会員の皆様にはどんどんと「つぶやき」の投稿をお願いしたい。

フォート・ほっとコラム

楽　＜ゴロゴロ、ガヤガヤと音を出すこと＞

景気が好転せぬまま新しい年を迎え、この業界においても更なる工夫と努力を必要とする一年になることが予測されます。こんな厳しい情勢において大切にしたいのが心の持ち方です。よくない状況も前向きに明るく考えることで新たなる発想を生み、新しい展開を作り出して問題解決に繋がっていくことがよくあります。ですから悪い状況におかれた時は暗くならず、気持ちの転換を図るべく、自分流の楽しむ術を見つけることが必要かと思われます。

ではこの気持ちの転換を図るためにどんなことをして楽しむか。旅行をして楽しむとか、スポーツをして楽しむとか各人各様でいろいろとありますが、その中のひとつに歌があります。まだ記憶にも新しいあのチリの33人が過ごした地下での69日間、チリの国歌などみんなで歌うことがひとつの心の支えになっていたようです。「楽」という字の意味にもうひとつ心がうきうきするとあります。楽しむことは沈んだ心を鼓舞し、人の気持ちを元気にしてくれるようです。

広報やウエブでも研修の後、歌で楽しまれている様子がありほほえましく見ています。歌って元気になるのは私だけではないようですね。

心の元気こそ何にも勝る塾の活力ですから、歌にかぎらず楽しむ何かを見つけて今年も明るく乗り切りたいですね。

楽　＜うきうきした心＞で一年を過ごしたい。

（文＆写真：城忠道・エリア中国・芸城学院）

賛助会員一覧（順不同）

関東国際高等学校　村山ｻﾝﾄﾞﾗｰ先生
東京都渋谷区本町3-2-2　TEL03-3376-2244

江戸川学園取手中学高等学校　竹澤　賢司先生
茨城県取手市西1-37-1　TEL0297-74-8771

十文字中学高等学校　夘木　幸男先生
東京都豊島区北大塚1-10-33　TEL03-3918-0511

東洋高等学校　野間　一夫先生
東京都千代田区三崎町1-4-16　TEL03-3291-3824

桜丘中学高等学校　品田　健 先生
東京都北区滝野川1-51-12　TEL03-3910-6161

聖徳大学附属中高等学校　川並　芳純先生
千葉県松戸市秋山600　TEL047-392-8111

麹町学園女子中高等学校　大野　博人先生
東京都千代田区麹町3-8　TEL03-3263-3014

春日部共栄中学　宇野　禎弘先生
埼玉県春日部市上大増新田213　TEL048-737-7611

大成高等学校　森　保　先生
東京都三鷹市上連雀6-7-5　TEL0422-43-3196

東京学園高等学校　須藤　勉　先生
東京都目黒区下目黒6-12-25　TEL03-3711-6641

東京立正中学高等学校　藤井　教戒先生
東京都杉並区堀ノ内2-41-15　TEL03-3312-1111

八雲学園中学高等学校　横山　孝治先生
東京都目黒区八雲　2-14-1　TEL03-3717-1196

関東第一高等学校　副田　康孝先生
東京都江戸川区松島2-10-11　TEL03-3653-1541

武蔵野中学高等学校　丹野　秀彦先生
東京都北区西ヶ原4-56-20　TEL03-3910-0151

神田女学園中学高等学校
東京都千代田区猿楽町2-3-6　TEL03-3291-2447

和洋国府台女子中学高等学校　太田陽太郎先生
千葉県市川市国分4-20-1　TEL047-371-1120

新渡戸文化中学高等学校　小嶋　輝夫先生
東京都中野区本町6-38-1　TEL03-3381-0196

文京学院大学女子中学高等学校　嶋田　栄司先生
東京都文京区本駒込6-18-3　TEL03-3946-5301

京北学園中学高等学校　実方　隆志先生
東京都文京区白山5-28-25　TEL03-3941-6253

大森学園高等学校　矢部　一紀先生
東京都大田区大森3-2-12　TEL03-3762-7336

東京成徳大学中学高等学校　増澤　文徳先生
東京都北区豊島8-26-9　TEL03-3911-2786

日本工業大学駒場中学高等学校　河村　文夫先生
東京都目黒区駒場1-35-32　TEL03-3467-2130

青稜中学高等学校　笠松　芳幸先生
東京都品川区二葉1-6-6　TEL03-3782-1502

東京女子学園　実吉　幹夫先生
東京都港区芝4-1-30　TEL03-3451-6523

駒込中学高等学校　河合　孝允先生
東京都文京区千駄木5-6-25　TEL03-3828-4141

愛国中学高等学校　高橋　英夫先生
東京都江戸川区西小岩5-7-1　TEL03-3658-4111

日本橋女学館中学高等学校　羽田野　敦先生
東京都中央区日本橋馬喰町2-7-6　TEL03-3662-2507

安田学園中学高等学校　福谷　隆芳先生
東京都墨田区横綱2-2-25　TEL03-3624-2666

科学技術学園高等学校　船津　和良先生
東京都世田谷区成城1-11-1　TEL03-5494-7711

日本音楽高等学校　中野　道代先生
東京都品川区豊町2-16-12　TEL03-3786-1711

立正中学高等学校　今田　正利先生
東京都品川区大崎4-2-16　TEL03-3492-4416

上野学園中学高等学校　高橋公美子先生
東京都台東区東上野4-24-12　TEL03-3842-1021

二松学舎大学付属高等学校　舘野　宏　先生
東京都千代田区九段南2-1-32　TEL03-3261-9288

村田女子高等学校

村田学園小石川女子中学校　武　雅祐先生
東京都文京区本駒込2-29-1　TEL03-5940-4187

自由学園（中等部・高等部）　椚田　結子先生
東京都東久留米市学園町1-8-15　TEL042-422-3111

帝京中学高等学校　大谷　幸男先生
東京都板橋区稲荷台27-1　TEL03-3963-4711

京華学園　今野　巌　先生
東京都文京区白山5-6-5　TEL03-3941-6493

千代田女学園　菅原　俊軌先生
東京都千代田区四番町11　TEL03-3263-6551

日出中学高等学校　寺本　郁夫先生
東京都目黒区目黒1-6-15　TEL03-3492-3388

目黒学院中学校　高山　松三先生
東京都目黒区中目黒1-1-50　TEL03-3711-6556

共栄学園中学高等学校　伊藤　裕先生
東京都お花茶屋2-6-1　TEL03-3601-7136

仙台育英学園高等学校　澤田　敏明先生
宮城県仙台市宮城野区宮城野2-4-1　TEL022-293-1125

北海道芸術高等学校　鈴木　康弘先生
東京都豊島区池袋2-78-10　TEL03-5979-9095

(株)創開コミュニティー　小林　和光様
千葉県柏市柏2-7-22-202　TEL04-7164-6511

ドラゴンフィールド㈱　和田　功様
東京都千代田区神田錦町3-23　TEL03-5282-3174

㈱パワーコンサル　山田　博史様
東京都豊島区東池袋1-21-11-7Ｆ　TEL03-5928-1686

㈱私塾界　山田未知之様
東京都豊島区東池袋1-39-1三善ビル　TEL03-3987-0838